



19日、合同練習会に参加したメンバー。前列左より4人目が土佐氏、右より5人目が王氏。



20日、各道場の指導者らが審判員を務め、「数多く試合を経験できるように」と1コートで2試合が同時進行された。



19日、合同練習会初日。休憩時間に身振り手振りで玄制流の型「三才」を練習する日本と台湾の選手たち。翌20日も同様の光景が。将来、国際大会で彼らが「三才」を演武して試合する日がくるかもしれない…？



20日の練習試合には、300名以上が集結！



日本空手松涛連盟・甲斐指導員（左）。日本空手松涛連盟・牧田指導員が「燕飛」「壮鎮」の順番を指導する様子。



日本空手松涛連盟・牧田指導員が「燕飛」「壮鎮」の順番を指導する様子。

〈練習会主催者より〉
この場をお借りし
心より感謝申し上げます。
保善高等学校・関口榮司校長先生
空手道部監督・奈佐有記先生
前田博史先生
全空連事務局長・生沼剛先生
松涛連盟・香川政夫師範
牧田拓也先生
甲斐健太先生
拳心会・古屋亜呂晴先生
空手道部保護者会のご父母の方々、空手道部の方々

「拳」は言葉の壁を越える 日本・台湾 交流合同練習会

2月19日～20日、私立保善高校（東京都新宿区）にて、国際玄制流空手道連盟武徳会・土佐樹彦氏、台湾・王祖祥氏の発案で、日台の選手・指導者による合同練習会が開催された。（取材／小日向藍菜）

19日、形を中心に練習

練習会を企画した土佐樹彦氏と、王祖祥氏（台北駐日経済文化代表処Ⅱ東京都港区）は、第5回アジア空手道選手権大会（01年）に出場した選手同士。当時は面識がなかったが、09年4月、王氏の来日を契機に交流が始まった。

2月19日、台湾の選手15名・指導者3名と、日本の道場生5名が保善高校に集合、台湾側の「この機会に玄制流の型『三才』を学びたい」との要望に応じ、午前10時より土佐氏の指導で「三才」の練習が行われた。

午後は保善高校空手道部員も合流。NPO法人日本空手松涛連盟より牧田拓也、甲斐健太の両指導員を招いて「燕飛」「壮鎮」の講習（台湾側の希望、土佐氏の指導で組手練習…とハードな一日を終えた。

20日、練習試合で交流

翌20日は関東近辺から300名を超える

選手たちが同会場に集まり、練習試合が行われた。9つの簡易コートで（小学1～3年・同4～6年、中学生の3部門に分割）、選手は同じ部門内で自由にコートを移動し、相手を見つけては試合経験を積んだ。集中力を維持するため、コートごとに勝敗のつけ方や試合時間を臨機応変に工夫していた。

また、中学生が保善高校空手道部員に挑戦できる「チャレンジコート」が設けられたのも特徴のひとつ。

来日したばかりの猛練習に疲れも見せず、休憩時間には、前日に習った「三才」を忘れまいと台湾選手が一人、また一人と刑を練習し始め、それを見て日本の選手が、隣で演武してみせる。

使う言語が違っても、技は同じ。空手を楽しむ心も同じ。型の練習となれば、身振り手振りで示し、大きくうなずいて意思疎通をはかれる。土佐氏と王氏が再会したように、このたび一緒に稽古をした選手たちが、いつかどこかの国で再会できたら―それもお互い空手衣を着て―こんな喜びはない。